

## 平成30年度学力向上研究指定校事業第2回連絡協議会・報告資料

## 平成30年度を取組の概要

学 校 名	大和町立吉岡小学校	主な取組教科	算 数
研 究 主 題	確かな学力を身に付けた児童の育成 ～「課題設定」と「振り返り」に重点を置いた、学びを実感させる授業づくりを通して～		研究年次 1 / 3年次

## 1 今年度の主な学力向上の取組と成果

学力向上の取組	成 果	評価の根拠
研究の視点を意識した日々の授業づくり 【視点1】学ぶ必要感をもたせる学習課題の設定 【視点2】本時の学びを自覚させる振り返り	課題を発見し解決するために必要な思考力・判断力・表現力が少しずつ身に付いてきた。また、主体的に学習に取り組む態度が育ってきている。  本時の学習内容を生かし、自力で適用問題を解く児童の姿が増えてきた。	「どのような問題提示が有効であったのか」「どのような発問が有効であったのか」についての実践蓄積により、課題提示段階やまとめ段階での児童のつぶやきが増加し、表情の変化も見られた。  「適用問題による習熟の見取り」についての実践蓄積により、適用問題に自信をもって取り組む児童が増加した。
授業終末での適用問題や朝のパワーアップタイム・スキルタイムでの取組の積み重ね	児童の基礎的・基本的な知識・技能の習得に生かすことができた。	4月からの継続により、前向きに計算に取り組むようになってきており、着実に力を付けてきているという教師側の実感がある。
i-checkによる児童の実態把握や「吉岡小学校の学習のやくそく」「あたりまえのこと五箇条」の徹底	i-checkによる児童の実態把握を行い、指導案の中に取り入れていくことで、授業づくりに生かすことができた。よりよい学習習慣の形成を目指し、職員で共通理解を図ることができた。	指導案の中にi-checkの分析を入れ込み、教師の見取りだけでなく、客観的な児童の実態把握に生かした。また、よりよい学習習慣の形成を目指し、大和中学校区4校で「あたりまえのこと五箇条」に取り組み、児童への働き掛けを継続して行うことができた。

## 2 残された課題・要因と今後の方向性

課題・要因	今後の方向性
本時の学びを自覚させるための言語活動の充実	「対話的で深い学び」とも関連させ、「自力解決」「集団解決」の学び合いの在り方について、これから話し合いを深めていく。
問題場面提示から課題設定までの吟味と算数コーナーを活用した既習事項の想起	問題場面の提示から課題設定までを児童の思考に沿ったものにし、児童のつぶやきや発言を拾いながら学習課題を設定していく。また、本時の授業で用いたい既習事項や前時までの学習内容を計画的に算数コーナーに設置し、授業づくりに生かしていく。

◆大和町立吉岡小学校 研究関連 URL : <http://www.taiwa-tk.ed.jp/yoshioka-e/>

学 校 名	大和町立吉田小学校	主な取組教科	算 数
研 究 主 題	確かな学力を身に付けた児童の育成 —算数科における自力解決の力を高めるための授業づくりの工夫を通して—	研究年次	1 / 3年次

## 1 今年度の主な学力向上の取組と成果

学力向上の取組	成 果	評価の根拠
家庭学習の日常化を目指した「チャレンジファイル」の作成とその活用の充実	児童の学びを一括して整理し、児童も家庭も日々の学びを確かめ、家庭学習に生かすことができた。	学習の手引き・各種カード・学習ノートが一括管理され、家庭学習ノートや保護者からの一言からも取組が定着していることが分かる。
スキルタイム（モジュール）や放課後スクールを活用した基礎基本の定着	朝や放課後の時間を活用し、基礎基本の問題に取り組むとともに、自ら学ぶ意欲を高め学習の仕方を身に付けることができた。	保護者・児童へのアンケートからも短時間であっても復習することで、分からないことが分かるようになったと9割が回答している。
既習事項との関連や学びの足跡、学習の連続性が見える「学習コーナー」の設置	単元全体（前年度も含め）や前時と本時の既習事項を掲示し、思考・表現活動に役立てることができた。	考えの根拠となる既習事項が常に掲示されていることから、児童が学習コーナーを生かして、学ぶ姿が多く見られるようになった。
児童の学びの足跡が見える「ノートづくり」	ノートと板書との関連を意識し、後で役立つノートづくりを目指し、丁寧にまとめる児童が増えてきている。	本時の学習や振り返りのプリントなどに取り組む際にこれまでの学習のノートを確かめながら考える姿が見られるようになった。

## 2 残された課題・要因と今後の方向性

課題・要因	今後の方向性
上記の様々な取組において、すべての学年・学級が同一歩調で取り組むこと、学校全体における学びの柱としての内容を検討・改善が必要である。	それぞれの取組を振り返り、その都度、評価改善を行うとともに、家庭との連携を図り一層の活用を充実させていく。
算数科の授業改善に向けた「算数科における授業の流れ」の作成と実践	算数科の授業改善に向けた「算数科における授業の流れ」を確実なものとし、授業実践に当たり、評価・改善にあたる。

学 校 名	大和町立鶴巣小学校	主な取組教科	算 数
研 究 主 題	確かな学力を身に付けた児童の育成 —算数科における自分の考えを表現させる授業づくりを通して—		研究年次 1 / 3 年次

## 1 今年度の主な学力向上の取組と成果

学力向上の取組	成 果	評価の根拠
自分の考えをもたせるために、課題把握の方法、課題を解くための既習事項の活用の仕方、自分の考えを示す方法を具体的に繰り返し指導した。	課題を読み取り、既習事項を想起して見直しをもって取り組み、半具体物を使ったり、図をかいたりして自分の考えを示せる児童が増えた。	児童の学校生活に関するアンケート（12月）から、授業に進んで取り組んでいる（86%）の回答が得られた。また、授業の終末でノートに分かったことや、新たに学んだことを文で書くことができる児童が増えてきている。
授業の中で繰り返し伝える活動をさせていくことで、自分の考えを伝える方法を身に付けさせ、進んで伝えることができるようにした。	自分の考えを自信をもって伝えることができる児童が増えたことで、多様な考えの交流ができるようになった。	児童の算数の学習に関する意識調査（12月）では、「友達と話し合って学習するのが好き」と答えた割合が5月の調査に比べて18%増加している。
基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指した「ステップタイム」の実施や「家庭学習」の習慣化、活用力を育てることを目的とした「週末課題」に取り組ませた。週末課題は、解説の時間を毎週火曜日の朝の活動に設定した。	朝15分間の短い時間に計算問題を解くことで、集中して計算練習をすることができ、計算することに自信がついてきている。 家庭学習をする習慣が身に付いてきている児童が多い。既習問題の習熟が図られ、新たな課題に取り組む意欲ももてるようになってきている。	児童の意識調査（12月）から、78%の児童が「計算することが得意」と感じていることがわかった。 家庭学習の時間については、児童の意識調査（12月）では、家で学年×10分以上の学習をしていると答えた児童は86%。「家で進んで学習している」と回答した保護者は1学期をわずかが上回っていた。

## 2 残された課題・要因と今後の方向性

課題・要因	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えがもてるような手立てを児童自身にもたせていくことが必要である。</li> <li>・自分の考えを伝えることが一方的になったり、自分の考えをもつことが相手の意見を聞かない一因となったりすることがあった。</li> <li>・週末課題は家庭での取組に無理がある児童もいたため、児童の実態に合った家庭学習の課題を工夫しなければならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を児童が自ら振り返ることができるような計画的なノート作りをさせていく。</li> <li>・考えを交流させ、課題解決に向かうための活動形態や集団設定を工夫する。</li> <li>・自分の考えを伝えるだけでなく、相手が話したことを聞く力の育成を図る。</li> <li>・児童の実態に合った家庭学習の内容や、朝の時間の使い方を検討していく。</li> </ul>

学 校 名	大和町立落合小学校	主な取組教科	算数
研 究 主 題	確かな学力を身に付けた児童の育成 — 思考力を育てる算数科の授業づくりを通して—		研究年次 1 / 3年次
1 今年度の主な学力向上の取組と成果			
学力向上の取組		成 果	評価の根拠
・児童が主体的に自力解決に取り組む授業づくり		・既習事項を確認したり、前時との違いを確認したりして、見通しをもたせてから自力解決に取り組ませるスタイルをどの学年でも継続してきた。その結果、自力で課題を解決しようとする主体性が増してきた。	・分かっていることや前時との違い等を全体で確認し、ベースを整えてから自力解決に取り組むという流れを継続してきたことで、課題を自力で解決しようとする姿勢が変わってきている。(日常の授業の様子より)
・児童が学び合う授業づくり		・どの学年もペア、グループ、全体での考え方の交流を授業の中に取り入れ、自分の考えを表現したり、友達の考えのよさを解き方に生かしたりできるようになってきている。	・低学年では、操作活動をしながら自分の考えを説明できるようになってきている。中学年や高学年は、グループ学習や全体の場で進んで発表したり、友達の考えのよさに気づき、問題の解き方に生かしたりできるようになってきている。(日常の授業の様子より)。
・「あたりまえのこと五箇条」「3つの提言」「i-check を生かした授業づくり」への取組 【大和町内統一】		・筆箱の中身をそろえ、授業の準備をしっかりと学習に取り組んでいる。3つの提言にある「めあてをもたせる」「ふりかえり」「家庭学習」には、どの学年も意識して取り組んでいる。i-check の結果を生かした授業づくりをしている。	・「あたりまえのこと五箇条」はどの教師も意識して指導に当たっている。また、大和町で統一して実施している「3つの提言」も、それぞれの先生が意識して授業の中に組み込むようにしている。i-check の結果は、主に自己肯定感を高めていきたい児童を把握するのに活用し、授業づくりに生かしている。
・家庭学習の手引きを活用した家庭学習への取組。(学年×10分+10分)【大和町内統一】		・推奨している時間をほとんどの児童が達成できており、家庭学習が習慣化している。	・家庭学習カードへの記入状況や、家庭学習への取組状況の確認より。
2 残された課題・要因と今後の方向性			
課題・要因		今後の方向性	
・基礎基本を定着させるための手立ての一つとして「みやぎ単元問題ライブラリー」を活用してのスキルアップタイム(週1回・40分間)に取り組ませてきた。しかし、下位群の底上げが十分に図られていない。取り組みませ方に工夫が必要である。		・計算の基礎となる四則の計算問題を指導時間内に取り入れるなど、スキルアップタイムへの取り組みませ方を工夫して計算力のレベルの底上げを図る。	
・家庭学習は、それぞれの学年で目標としている時間をほとんどの児童が達成できているものの、家庭学習の取り組み方への質の差がある。その結果、基礎基本が十分に定着していない児童がみられる。		・家庭学習の内容の見直し、質の向上を図る。	

◆大和町立落合小学校 研究関連 URL : <http://www.taiwa-tk.ed.jp/ochiai-e/>